

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

鴨川駅の派出所廃止 入換1人化反対!

JR千葉支社は12月24日、安房鴨川駅での入換作業について、運転士とCTS鴨川派出所から1人の2人体制から、運転士1人で行わせると提案しました。それに伴い、CTS幕張事業所・鴨川派出所の出区点検と入出区作業の発注を取りやめるとしています。また、CTSは12月25日、「CTS鴨川派出所を廃止する」と提案しました。

運転士への負担増・労働強化

提案時の説明では、2人体制で入換を行っていた理由について、「交通量のある踏切を支援するので、遮断時間を短くするため」としました。また、今後6両以下は、「1人でも影響は最小限」として1人での入換とし、

【千葉支社提案】
安房鴨川駅での入換作業
(現) 2人体制 → (改) 1人体制

【CTS提案】
CTS幕張事業所鴨川派出所
(現) 1徹 → (改) 廃止
実施日：3月15日(土)

8両以上は駅ホームへの留置などで入換を原則行わないとしています。

運転士にとつて、これまで以上の負担増・労働強化です。

また、踏切の遮断時間を長くしても良いとい

う意味では、廃線化と同じく地域切り捨ての問題でもあります。

安全切り捨てを許さない

千葉支社は2000年以降、錦糸町(06年)、館山(10年)、成田(12年)、銚子(22年)、一ノ宮(24年)と管内の派出所を、まさに次々と廃止してきました。

さらに昨年10月1日からは、JR本体の千葉派出所・西船橋派出所についても、日中帯は車両センター本区に融合化されています。横浜支社でも8月1日から横浜派出所と大船駅ホーム検査削減、逗子派出所の鎌倉車両センター本区への融合化なども進められています。

事実上、「もう検査派出所はいらない」と宣言するような攻撃です。この間、車両故障・車両交換、獣害、倒木・倒竹などの衝突が多発しています。しかし、乗務員は検査係に対応してもらえなくなります。

ワンマン化の全面的な拡大と合わせて考えれば、運転士の負担とプレッシャーは大変なものになります。コストの削減・利益のためだけに安全を切り捨てる攻撃です。

これは会社が進めてきた外注化施策の矛盾と破綻でもあります。会社の攻撃は決して万全ではありません。3月ダイ改・鴨川派出所廃止・入換1人化に反対の声を上げよう。